

AIDSネットワーク横浜 ニュースレター

発行：特定非営利活動法人 AIDS ネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町 3-39 尾上町ビル 9 F

Tel : 045-201-8808 fax : 045-201-8809

ホームページ <http://www.netpro.ne.jp/any/>

e-mail : any@netpro.ne.jp



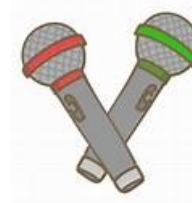
第 27 期ボランティア学校が終了 ～10 講座で延べ 162 名が受講しました～

第 27 期ボランティア学校は、8 月 24 日をもって終了しました。受講者は 10 講座合計で延べ 162 名になりました。7 割以上の受講実績がある 3 名の受講者の方に修了証をお渡ししました。HIV・エイズに関連する最新の情報等が得られたと参加者の満足度も高かったことが、寄せられたアンケートでわかります。

7 月 6 日開催 〈HIV陽性者の現状と課題・・・当事者との対談〉

お話：タケさん(男性)

聞き手：高久陽介さん(日本HIV陽性者ネットワークジャンププラス)



高久さんがタケさんに質問する形で進行し、タケさんのHIV感染、治療、暮らし、仕事などについて貴重なお話をお聞きした。

自己紹介とそれまでのHIVへの認識

きょうは、横浜まで3時間かかってきました、以前は埼玉に住んでいました。45歳です。2009年、36歳の時に感染が分かった。自分がHIVについてのイメージは、キース・ヘリングやフレディ・マーキュリーがエイズで亡くなったことから、外国の人の病気という認識だった。日本では薬害エイズ事件のニュースがあり、国と和解したが「かわい

そう」という認識だった。性病については、(自分の周囲には)活発な人が多く、淋病にかかっている人もいた。「やっちゃった！」という感じで羞恥心なく話していた。

感染が分かったのは？

2009年に感染が判明した。1年前くらいから微熱が続き、1週間に3日くらいは熱が出ていた。半年前にめまいと立ち眩みになっ

た。鼻の周りがただれて膿が出ていた。忙しい日常で仕事（会社）に行っていた。医者にも診てもらっていたが、解熱剤や軟膏をもらい対症療法を行っていた。内科の主治医はH I Vを疑っていなかったと思う。毎日、発熱するようになった。のどにカビが生えるカンジダになり耳鼻科で内服薬をもらっていた。心療内科でも診てもらい抗うつ剤を処方されていたが、大学病院の心療内科に転院した。その病院の内科で体調不良に対してガンかもしれないということで色々な検査をした。そこで、H I Vが陽性と分かった。正直その時は、（体調不良の）原因が分かってほっとした。

その時のH I Vのイメージは？

すぐに死ぬのかなと思った。CD 4 は5だった。（医者に）死ぬんですかと聞いたら、25%ですと言われた。入院しなくては行かなかった、自分は出世欲があり会社にばれたくなかった（会社を休みたくなかった）。会社には血液のガンと嘘を言って2カ月入院した。

家族に告知

両親と兄には感染を伝えた。同居している家族にうつすのではないかと思った。（家族に）気を付けてほしいというつもりで言った。兄は、なかったかのようにそのことには触れていない。両親は、受け止めてくれた、ように見える。両親には医師から説明してもらった。職場の人には、ゲーゲー吐いているから見舞いに来ないでと言ひ、会社に診断書は出さずに過ごした。会社では、故障者リストに入れられて出世コースから外れた。

治療は

退院後の通院は、1週間に1回だったが、今は2〜3カ月に1回。家庭内で神経質に過ごしていた。ネットを見ていたがネット情報の間違いも多い。

ぷれいす東京につながる

ネットで「ぷれいす東京」を知り、個別相談を申し込んだ。職場にばれないか、結婚できない、彼女ができるか等のうっぷんを聞いてもらった。それから、当事者の集まりで交流するようになった。そこで、ゲイの人達に会い、セクシュアリティについて面食らった。「2丁目に行ったんですか？」と聞かれ、「えっ、2丁目？ 僕は4丁目に住んでいます！」なんて答えて「???」って感じだった(笑)。ゲイの人達との交流が多く、ヘテロセクシュアル（感染）の人と話がしたいと思うようになった。病気に関する知識は満たされてきていた。陽性の相手（女性）と知り合いたいと思った。

「ぷれいす東京」に異性愛者限定の交流会を持ってほしいと要望し実現した。2011年9月に4人（男性3女性1）が集まった。治療や飲み忘れ、恋愛のことなどを交流し2カ月に1回の集まりになっている。そこで出会った人と5年前に結婚した。今は交流会のファシリテーターを務めている。

結婚生活

彼女は自分の感染を家族に伝えていないので、結婚式の時、自分の家族が相手の家族にそのことに触れないよう釘を刺し乗り切った。自分たちのことを知る人たちが、ある学

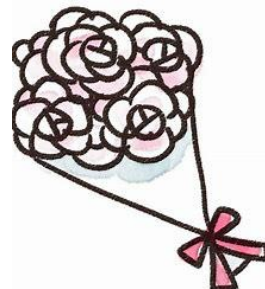
会の折、サプライズで結婚を祝ってくれてうれしかった。

病気を境に人生観が変わった。自分はそれまでは、多様性について考えたことがなかった、多様性について考えるようになった。

今は、3カ月に1回、東京の病院へ通院している。障がい者手帳を取得している。会社

にばれるとかのことはない。現在は、CD4値は300～500。彼女は1400ある。

*タケさん、プライベートなお話をありがとうございました。



第26回AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

テーマ：〈話す〉と〈リアル〉に！！

8月2日（金）～4日（日）開催

AIDSネットワーク横浜は、8月3日に「感染者・患者の生活とソーシャルワーカーの役割」と題して、友田安政さんの講座、「妊産婦への切れ目のない支援」と題して水主川純さんの講座を持ち、参加者に好評でした。水主川さんの講座の報告をします。

妊産婦への切れ目のない支援・・・水主川 純（東京女子医科大学）

妊婦のメンタルヘルスは分娩後の生活に大きく影響する

AIDS文化フォーラムでの水主川先生の講座は人気で今年も多くの方がありました。妊婦さんの妊娠の背景は多様であり、妊婦のメンタルヘルスは分娩後の生活に大きく影響する。不安やストレスを感じている妊婦は少なくない、抑うつ状態15%という報告もある。このような、妊婦の不安は生まれてきた子どもの発達に影響を及ぼす。母のコルチゾール（ストレスホルモンと言われているもの）が胎児に影響があるとするプログラミング仮説が言われている。

日本の母子感染の現状

HIVの母子感染は、妊婦から子どもへの垂直感染であり、胎盤、産道、母乳からの感染となる。HIV母子感染予防対策が行われていない場合の感染率は、15～30%と言われている。妊婦健診で母子手帳を取得すると公費負担でB型肝炎、C型肝炎、風疹、梅毒、HIV、ヒトT細胞白血球ウイルスの検査が受けられる。日本の妊婦健診は、オプアウト方式といってすべての妊婦に受けさせる前提になっている。HIV抗体検査は、確認検査前は0.1～0.3%の擬陽性が出る可能性がある。日本の年間出生数は100万人であり、HIV感染妊婦は約30人である。擬陽

性率が0.1%とすると擬陽性者は1000人となる。確認検査前のHIV抗体がプラスかマイナスかは明らかでない、確認検査の結果、ほとんどの妊婦はHIVプラスではないことが確認されている。

日本の母子感染の現状は、84年から15年までの厚労省が行ってるアンケート調査でのサーベイランスでは、954件の妊娠件数があり、出生数は644例、母子感染例は55例報告されている。0.6%の母子感染率である。複数回の妊娠報告もある。日本では、母子に対する抗ウイルス薬の投与、帝王切開、人工栄養により母子感染は低く抑えられている。

妊産婦への切れ目のない支援

～その他のAIDS文化フォーラム参加報告～

〈 回復を応援する共生社会とは・・・〉

登壇した方：松本俊彦さん（精神科医）塚本陽一さん（元NHK記者） 新堂慎二さん（医師）岩室伸也さん（泌尿器科医）

松本さんは、国立精神・精神医療研究センターで薬物依存症の患者さんを多く診療されている。塚本さん、新堂さんの主治医。岩室さんの司会で進行した。

パートナーと遠距離恋愛になり・・・

塚本さんは、最初は規制されていないラッシュ（2006年から規制対象）というものが最初の薬物だった。沖縄での勤務から東京の勤務になり、パートナーと遠距離になってストレスがたまり手を出してしまった。

ゲイだと自覚し、自分は世の中にいない存在だと思って生きてきた・・・

先天梅毒はペニシリンの投与で98%予防できる。しかし、妊娠初期の妊婦健診では梅毒マイナスだったものが後期にプラスになる事例もある。予期しない妊娠による中絶は年々減少している（03年30万件が16年は16万件）。予期しない妊娠を防ぐためのモーニングアフターピルの情報を届けたい。日本では産後うつ病は5～10%ある。産後2～4週頃、不安やあせり、不眠などが現れる。産婦健康診査事業では、「エジンバラ産後うつ質問票」（産後うつ病のスクリーニング票として英国で開発された）により産婦への切れ目のない支援が求められる。



新堂さんは、最初に覚せい剤を使用したとき拍子抜けしたという、勧めてくれた人は優しくて話もよく聞いてくれる人だった。岩室さんは、薬物には、人のからだにとって良いもの、悪いものの2通りがある。薬物を使う人を排除しないことが大切。市販薬を大量に摂取することもある。薬が問題ではなく根っこには生きづらさがある。

新堂さんは、現在 33 歳。研修医の頃、すごく疲れていた。（思春期の頃）自分がゲイと自覚するようになってから、自分は世の中にいない存在だと思ってきた。世の中から外れたってたいしたことないと思った。自分はいない存在だった。自分の未来を想像できなかった。希望を持っていなくて破滅的なことも受け入れられる。仮面をかぶってずーっとクローゼットの中にいたと、生きづらさを長く抱えてきたことを吐露された。

回復は、仲間とのかかわりが大事

回復プログラムについては、仲間とのかかわりが大事。悲しい、むかつくという負の感情に蓋をしている。傷ついた、さみしかったことを口に出せることが大事と岩室さんの話が続いたとき、新堂さんは、「感情を感じていたら自分は生きていなかった」と話された。

岩室さんから、薬物については、「ダメ！ゼツタイ！」キャンペーンがあるが、薬物を

使っていたけれど依存症ではない。薬物をやったら（やった人は）、ダメという排除は人をより孤立に追いやってしまう。薬物を使うことは、そんなに悪いことなのか？“薬”そのものはなくなる。被害者は自分のからだなのに。薬物を使う人を厳罰化することによって日本の薬物はひどくなった。厳罰化によって、だれともつながれないことになる。自分の感情と向き合うこと、自分のことを誰かと話せることに価値がある。集まって語ること。熊谷晋一郎さんが津久井やまゆり園の事件のあと語られた言葉に「依存の進め、自立は依存先を増やすこと」と言われた。改めてその言葉を思い出す。違法薬物使用により逮捕されマスコミ報道され社会から存在を消されていく、日本の社会の対応がさらなる回復を遠ざけている。ではどうすればいいのか、当事者の方が話してくれたことの重みを感じた。



「サヨナラ性暴力」パンフレットの紹介・・・キャンパスライフにおける性暴力防止のために

改訂版のお知らせ

2011 年に『サヨナラ性暴力』のパンフレットが発行（企画・編集：性教協）されました。2017 年には「強姦罪」が「強制性交等罪」になるなど刑法が改正されたり、「デジタル暴力」などの社会の情勢の変化に伴い、各種データの更新、内容の追加や刷新をし「改訂版」が発行されました。（2019 年 7 月）

購入をご希望の方は、性教協のホームページにアクセスしてください。 3 冊セット 1000 円 / 10 冊セット 3000 円（送料込み）



今年度の現在までの出前講座報告

堀尾 吉晴（事務局長）

出前講座・・・前期は高校を中心に

6月に本会主催のボランティア学校でAIDSと免疫について、横浜市の保健福祉センター職員対象に「電話相談の実際」を行った後、7月に県立の霧が丘高校、綾瀬高校、大和南高校、9月に横浜市立戸塚高校定時制で「性の多様性、性感染症、妊娠と中絶」についての話をしました。

毎年10回前後の依頼があり、小・中学校は中野が、高校・大学以上は堀尾が出向いています。従って今のところ、堀尾ばかりになっていますが、その報告をかいつまんでさせていただきます。

事前の打ち合わせと準備

打診や依頼を電話やFAXで受けると、まず学校に出向いて打合せをします。学校の要望とこちらのレディネスをつき合わせます。内容が定まったら、生徒に事前の○×形式のアンケートをとり、その集計を送ってもらい、講演に反映させます。これがおもしろい。

「受精は子宮で行われる」：○が80%、
「排卵日はきちんと決まっている」：○が55%、など、正しい知識の不足が如実に出てきます。その際に、性別を書いてもらうのですが、「自分の思っている性でよい」にしておきます。すると、集計での男女比と学校に登録してある男女比が違っていることが多くあります。「生徒が冗談で答えている？」の

も無いとは言えませんが、多くは性の不一致に悩んでいる子なのです。「その存在がいるのだ」と、先生方が認識を新たにする機会にもなっています。

講演は、「学び」の意味からはじめる・・・

講演はインドの山岳民族の話から始めて（時間が足りないときは省略）、「学び」の意味を考えてもらいます。そして、成長時のホルモンの話から、ヒトの性行為の特徴（デスモンド・モリスに倣って）へ、そして性の多様性でH・L・G・B・T・A・N・Q。

次に、STIの話を、年代別・性別のグラフ、症例写真を交えて展開します。クラミジア、淋菌、梅毒、HIVは必須で、余裕があればヘルペス、コンジローマか肝炎。その後、NaOHとフェノールフタレインを使って水の交換。感染の広がりを見学たちは視覚で感じ取ります。続けて、検査について具体的に話します。「匿名なんだから、名前も住所も言わなくていいんだよ。だから、どこでも受けられるよ。」「クリニックだとこのくらいの値段だよ」・・・

そして生殖の話。このあたりになると、大体時間が迫ってきて早口になりがちですが。女性生殖器の断面図をおおきくスクリーンに映し、名前の確認と排卵から着床までを解説。中絶の話をします。「22週以上はよほどのことがなければ出来ないよ」「11週ま

でとそれ以上では、制度も値段も違うよ」。生徒は真剣に聴いています。アフターモーニングピルの話も含めて、知識として持っていることは必須でしょう。

感染予防、避妊の話で、コンドームを見せたり、ピルの使い方を話したり、ネットの話や、アダルトビデオの話も交えたりして、最後は「だまされるなよ」です。

終わった後に、事後のアンケートをしてもらいます。

特に、質問については、極力早くお返事を書いて、教室に掲示してもらいます。



〈写真は戸塚定時制高校〉

世界AIDSデー 横浜開催でのお願い

主催：横浜AIDS自民活動センター

日時 2019年11月30日 11時～16時30分

会場 横浜新都市プラザ（地下2階のそごう入り口前の広場）



世界AIDSデー横浜が今年も開催されます。

11月30日（土）11：00～16：30で、横浜AIDS市民活動センターが主催。

場所もいつも通りの、横浜新都市プラザ、地下2階そごう入り口前の広場です。

集合は、スタッフ（ANYでは事務局長）は9：30ですが、他の方は10：00となります。

ANYの展示内容&他団体の内容

内容もほぼ昨年と同様で、ANY、AWC、技師会、SHIP、YMCAがそれぞれのブースで、お店を開きます。ANYはワークショップで、子ども向けパズルと、レッドリボン作りを行い、パズル参加者にはお菓子

のお土産を渡します。人数がそこそこ必要です。

AWCさんはレッドリボンのプラ板作り、技師会さんは展示と映像での啓発とアンケート、YMCAさんは展示を計画しています。

それ以外に、活動センターの企画として、アナウンスと音楽の放送、チラシ・パンフの配布、クイズラリーの実施、レッドリボンシールをつけたアートバルーンの配布、コムちゃんのヨチヨチ歩きなどがあり、それにも協力をします。事務局長は、そちらに貼り付けになり、ANYのブースには関与できない状況になります。

ボランティア参加のお願い

ANYの会員の皆様には、ぜひ協力をお願いします。一日は無理だけど、午前や午後だ

けならでも結構です。また、センター企画のコムちゃんに入ったり、誘導したり、アートバルーンを作ったりなどには、若者が向いています。お子さんでもお孫さんでもお知り合いでも、お声かけやお誘いが出来ればお願いします。日当は出せませんが、交通費と昼食はお出しします。

連絡は事務局長への電話か、A N Y への F A X かメールをお願いします。

「レッドリボン」だけでなく、「A I D S」への認知度が減っています。最近「ピンクリボンやオレンジリボンなら知っているけど、レッドリボンって何？」という若者が増えています。A N Y は大きなレッドリボンマフラーをつけて活動します。街頭キャンペ

ーンも減っていますし、報道もほとんどありません。

世界A I D S デー横浜が賑わうように、ご協力をお願いします。

会員外の方でこの文章をお読みの方も、ぜひお出で下さい。ボランティアもやってみようかという方、大歓迎です。ご希望の方、お尋ねの方はA N Y にメール

(any@netpro.ne.jp)で「A I D S デーボランティアについて」と送っていただければ、こちらから連絡いたします。高校の養護教諭の方で、保健委員などの生徒の参加を勧めたい方も同様にメールをいただければ幸いです。

～A N Y 電話相談カードを作成し、市・県内の保健所に配布しました～

横浜サンセット21ライオンズクラブの寄付により、名刺大の大きさのA N Y カードを作成しました。カードを入れるスタンドもつけて市内及び県内の保健所を中心に配布しました。

〈両面印刷のカード〉

電話相談部：電話相談件数

4月 59件
5月 72件
6月 74件
7月 76件
8月 41件
9月 57件

